Ⅵ 環境を考える

1 環境学習・環境啓発

現在の環境問題は、生産や流通などの活動が原因とされる産業型公害に加え、地球温暖化などに見られるように市民の日常生活も原因となっています。したがって、私たち一人ひとりが環境に対する理解を深め、生活の中で取り組んでいくことが重要となります。市では、環境学習講座を修了された方々と意見交換を行いながら、環境学習講座を実施しています。

（1） 環境学習

府中かんきょう塾2025

平成13年にエコ・リーダー養成講座としてスタートしました。現在では府中かんきょう塾として、講座修了生による企画・運営で進められています。令和7年度は全8回の連続講座、親子かんきょう塾を3回実施しました。 講座等参加者数：延べ421人

全8回の連続講座

回	日　時 参加人数	講座名	内　容	講　師	会場等
1	6月29日（日） 14:00～16:00 34人	開講式、 座学講座	開講式 パネルディスカッション「府中の環境をどう保全するか　ー環境保全活動センターと市民活動支援ー」	白梅学園大学　特任教授　朝岡　幸彦氏 府中市市民活動センタープラッツ　館長 林　丈雄氏　ほか	府中駅北第2庁舎3階会議室
2	7月19日（土） 10:00～12:00 21人	自然観察	フィールドワーク「府中の自然を歩く～武蔵台緑地～」	武蔵台緑地保全ボランティア	武蔵台緑地 武蔵台文化センター
3	8月9日（土） 14:00～16:00 26人	座学講座	講座「世界と日本のゴミ問題の現状や違い～JICA 海外協力隊・環境教育（スリランカ）隊員と一緒に考える～」	JICA 海外協力隊元隊員　北　俊宏氏	府中駅北第2庁舎3階会議室
4	8月30日（土） 14:00～16:00 34人	座学講座	講座「水環境の保全に向けて：合成洗剤、プラスチック等の化学物質による環境・人への汚染を知る」	東京農工大学　名誉教授　高田　秀重氏	府中駅北第2庁舎3階会議室
5	10月15日（水） 9:00～14:20 25人	施設見学	バス見学「町田バイオエネルギーセンターと剪定枝資源化センター」	見学先施設担当者	町田バイオエネルギーセンター、剪定枝資源化センター

6	11月8日(土) 9:30～12:00 27人	自然観察	フィールドワーク「府中の古道と名木百選を歩く」	元・府中観光案内人 山本 正昭氏	府中市内 府中駅北第2庁舎6階打合せ室、6階小打合せ室
7	12月14日(日) 14:00～16:00 18人	座学講座	講座「府中市のごみ対策について」	府中市役所 資源循環推進課職員	府中駅北第2庁舎3階会議室
8	1月24日(土) 13:00～16:00 24人	グループ活動発表、閉講式	グループ活動発表、交流会、修了式	事務局、サポーター	府中駅北第2庁舎3階会議室

親子かんきょう塾

回	日 時 参加人数	講座名	内 容	講 師	会場等
1	8月21日(木) 8:00～15:30 33人	夏休み親子かんきょう塾バス見学	夏狩湧水群(太郎・次郎滝、長慶寺)、道の駅つる、山梨県立リニア見学センターの見学	施設担当者	夏狩湧水群(太郎・次郎滝、長慶寺)、道の駅つる、山梨県立リニア見学センター
2	10月13日(月) 10:00～13:00 144人	森キッズDAYドングリde森づくり	自然素材を使ったクラフト体験や浅間山の手入れ体験	武蔵野の公園パートナーズ ほか	都立浅間山公園
3	3月7日(土) 8:30～15:30 35人	春の親子かんきょう塾バス見学	野山北・六道山公園での自然観察及び苗木の植付け体験、小平市ふれあい下水道館の見学	狭山丘陵パートナーズ施設担当者	野山北・六道山公園、小平市ふれあい下水道館

(2) 市民ボランティア調査

市民の方々の協力により環境調査を実施することで、より多くの人が環境に興味を持つきっかけづくりの場を提供し、さらにはフィールドワークを通して市民ボランティアを育成しています。また、得られたデータは、市の環境施策に活用するための基礎データとして、記録しています。この調査は、地域の環境に根ざした環境調査プログラムとして、市内で環境活動を行っている「特定非営利活動法人 府中かんきょう市民の会」に委託し実施しています。

実施回数、参加人数は、調査項目により異なりますが、令和7年度は延回数で24回、延参加人数は296人となりました。

（ア）西府崖線生態系調査（魚類・昆虫・野鳥等）

魚類・昆虫等調査　調査結果は 87 ページ～89 ページ
調査日：令和7年5月24日、令和7年7月26日、令和7年7月27日
調査場所：西府町1丁目（西府崖線付近一帯、府中用水含む）
参加人数：延べ46名
調査内容：西府崖線付近一帯に生息する魚類・昆虫等の調査

野鳥調査　　調査結果は 89 ページ～90 ページ
調査日：令和7年12月7日、令和8年1月17日　※令和7年12月7日は巣箱・銘板の点検のみ
調査場所：西府町1丁目（西府崖線付近一帯）
参加人数：延べ14名
調査内容：西府崖線付近一帯に生息する野鳥の調査

●西府崖線魚類等調査結果　（調査概要は 87 ページ）

種類	番号	種名	令和7年 7月26日
魚類	1	モツゴ	1種
	2	コイ	1種
	3	オイカワ	1種
	4	ニゴイ	1種
	5	メダカ	1種
	6	ドジョウ	1種
貝類	7	カワニナ	1種
エビ類・カニ類	8	アメリカザリガニ	1種
	9	ヌマエビ	1種
水生昆虫類	10	ヤゴ 2 種	2種
	11	アメンボ	1種
合計			12種

●　西府崖線昆虫類調査結果　（調査概要は 87 ページ）

種類	令和7年度（5月24日）			令和7年度（7月26日）		
	番号	昆虫名	計	番号	昆虫名	計
蝶・ガ類	1	ヤマトシジミ	7種	1	ヤマトシジミ	6種
	2	モンシロチョウ		2	ジャコウアゲハ	
	3	サトキマダラヒカゲ		3	ナミアゲハ	
	4	オオウンモンクチバ		4	アオスジアゲハ	
	5	モモノゴマダラノメイガ		5	ミノガ類（幼虫ミノムシ）	
	6	タケノホソクロバ		6	ハマオモトヨトウ	

	7	コスカシバ				
甲虫類	1	ムーアシロホシテントウ	28種	1	ニジュウヤホシテントウ	5種
	2	トホシテントウ		2	クズクビボソハムシ	
	3	キイロテントウ		3	クロカナブン	
	4	ナミテントウ		4	シラホシハナムグリ	
	5	スグリゾウムシ		5	カブトムシ	
	6	ヤマイモハムシ				
	7	クロウリハムシ				
	8	クズクビボソハムシ				
	9	ウリハムシ				
	10	キバラルリクビボソハムシ				
	11	キボシツツハムシ				
	12	クワハムシ				
	13	トホシクビボソハムシ				
	14	アカガネサルハムシ				
	15	トビサルハムシ				
	16	ルリマルノミハムシ				
	17	カシルリオトシブミ				
	18	ヒメシロコブゾウムシ				
	19	トホシオサゾウムシ				
	20	クチカクシゾウムシの一種				
	21	ヒシモンナガタマムシ				
	22	ムネアカナガタマムシ				
	23	マスダクロホシタマムシ				
	24	クズノチビタマムシ				
	25	ヒゲブトハムシダマシ				
	26	ナミクチキムシ				
	27	マルガタゴミムシ				
	28	セボンジョウカイの一種				
ハチ類	1	キイロシリアゲアリ	12種	1	トビイロケアリ	8種
	2	オオハリアリ		2	アミメアリ	
	3	トビイロケアリ		3	クロオオアリ	
	4	ウメマツオオアリ		4	クロヤマアリ	
	5	ハリブトシリアゲアリ		5	スズバチ	
	6	アミメアリ		6	コガタスズメバチ	
	7	クロオオアリ		7	キイロスズメバチ	
	8	トビイロシワアリ		8	ハバチの一種（幼虫）	
	9	クロヤマアリ（オスアリ）				
	10	ハグロハバチ				
	11	バラハタマバチ				
	12	キイロスズメバチ				
アブ・ハエ類	1	ハナアブの一種	4種	1	アメリカミズアブ	3種
	2	ヒトスジシマカ		2	キンバエの一種	
	3	ホソガガンボの一種		3	シオヤムシヒキ	
	4	ムシヒキアブの一種				
セミ・カメムシ類	1	ヒゲナガカメムシ	10種	1	キマダラカメムシ	7種
	2	ホシハラビロヘリカメムシ		2	マルカメムシ	
	3	ヨコヅナサシガメ		3	アブラゼミ	
	4	マルカメムシ		4	ミンミンゼミ	
	5	アカサシガメ		5	クマゼミ	
	6	ヨコヅナサシガメ		6	ニイニイゼミ	

	7	アワダチソウヒゲナガアブラムシ		7	チュウゴクアミガサハゴロモ（成虫）	
	8	クリオオアブラムシ				
	9	ツツジグンバイ				
	10	チュウゴクアミガサハゴロモ（幼虫）				
バッタ類	1	クビキリギス	3種	1	ショウリョウバッタ（成虫）	2種
	2	アオマツムシ（幼虫）		2	ヒシバッタの一種	
	3	ショウリョウバッタ（幼虫）				
トンボ類			0種	1	アジアイトトンボ	5種
				2	アオモンイトトンボ	
				3	オオアオイトトンボ	
				4	ミヤマアカネ	
				5	シオカラトンボ	
カマキリ類	1	オオカマキリ（幼虫）	1種	1	オオカマキリ（幼虫）	1種
ゴキブリ類	1	モリチャバネゴキブリ	1種			0種
カゲロウ類	1	カゲロウの一種（成虫）	1種			0種
アミメカゲロウ類	1	クサカゲロウの一種（成虫）	1種			0種
ナナフシ類	1	ナナフシモドキ	1種			0種
クモ類	1	キンイロエビグモ		1	チャイロアサヒハエトリ	
	2	アシナガグモ		2	ハエトリグモの一種	
	3	ウロコアシナガグモ				
	4	シロスジショウジョウグモ				
	5	ギンメッキゴミグモ				
	6	アリグモ				
	7	クサグモ				
	8	サツマノミダマシ				
	9	アオオビハエトリ				
	10	チャイロアサヒハエトリ				
その他	1	オオダンゴムシ		1	トカゲの一種	
	2	カベアナタカラダニ		2	アメリカザリガニ	
	3	ヒバカリ（ヘビ）		3	サワガニ	
				4	カワエビ	
				5	巻貝の一種	
合計	11類　69種		69種	8類　37種		37種

● **西府崖線野鳥調査結果**　（調査概要は 87 ページ）

番号	科名	鳥名	令和8年1月17日	
			直視認	確認
1	カモ科	カルガモ		
2	ハト科	キジバト	○	○
3	タカ科	トビ	○	○
4	モズ科	モズ		
5	カラス科	オナガ	○	○
		ハシボソガラス	○	○
		ハシブトガラス	○	○
6	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○

7	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○
8	エナガ科	エナガ		
9	メジロ科	メジロ	○	○
10	ムクドリ科	ムクドリ		
11	ヒタキ科	ツグミ	○	○
		ジョウビタキ		
12	スズメ科	スズメ		
13	ウグイス科	ウグイス		
14	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○
		キセキレイ		
15	アトリ科	カワラヒワ		
		シメ		
16	ホオジロ科	アオジ	○	○
17	キツツキ科	コゲラ		
18	ツグミ科	シロハラ	○	○
合計				12種

※他直視/外来種：カワラバト

（イ）西府町湧水調査

調査期間：令和7年4月～令和8年3月（通年）

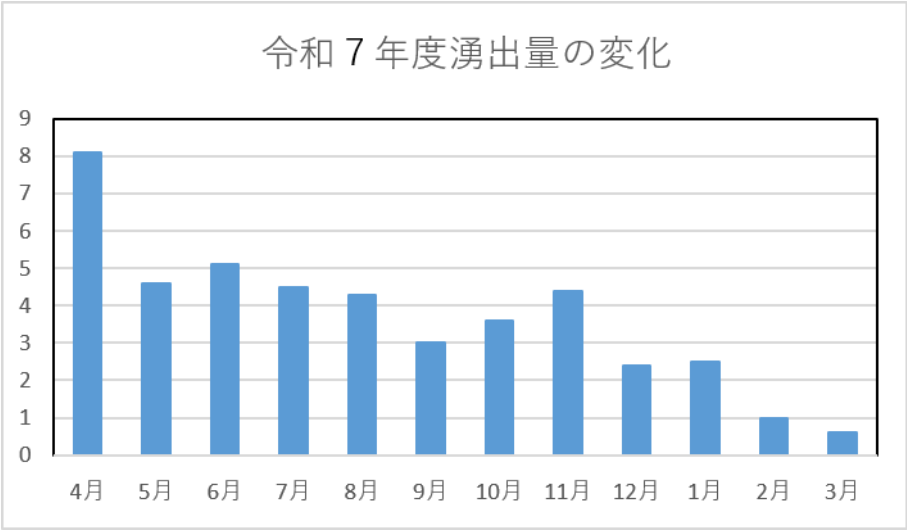
調査場所：西府町湧水

参加人数：延べ　45名

調査内容：湧水量、湧水温度、水質の通年データ測定調査

湧水量調査結果

西府町湧水の湧出量	
計測月	湧出量（ℓ/分）
4月	8.1
5月	4.6
6月	5.1
7月	4.5
8月	4.3
9月	3
10月	3.6
11月	4.4
12月	2.4
1月	2.5
2月	1
3月	0.6



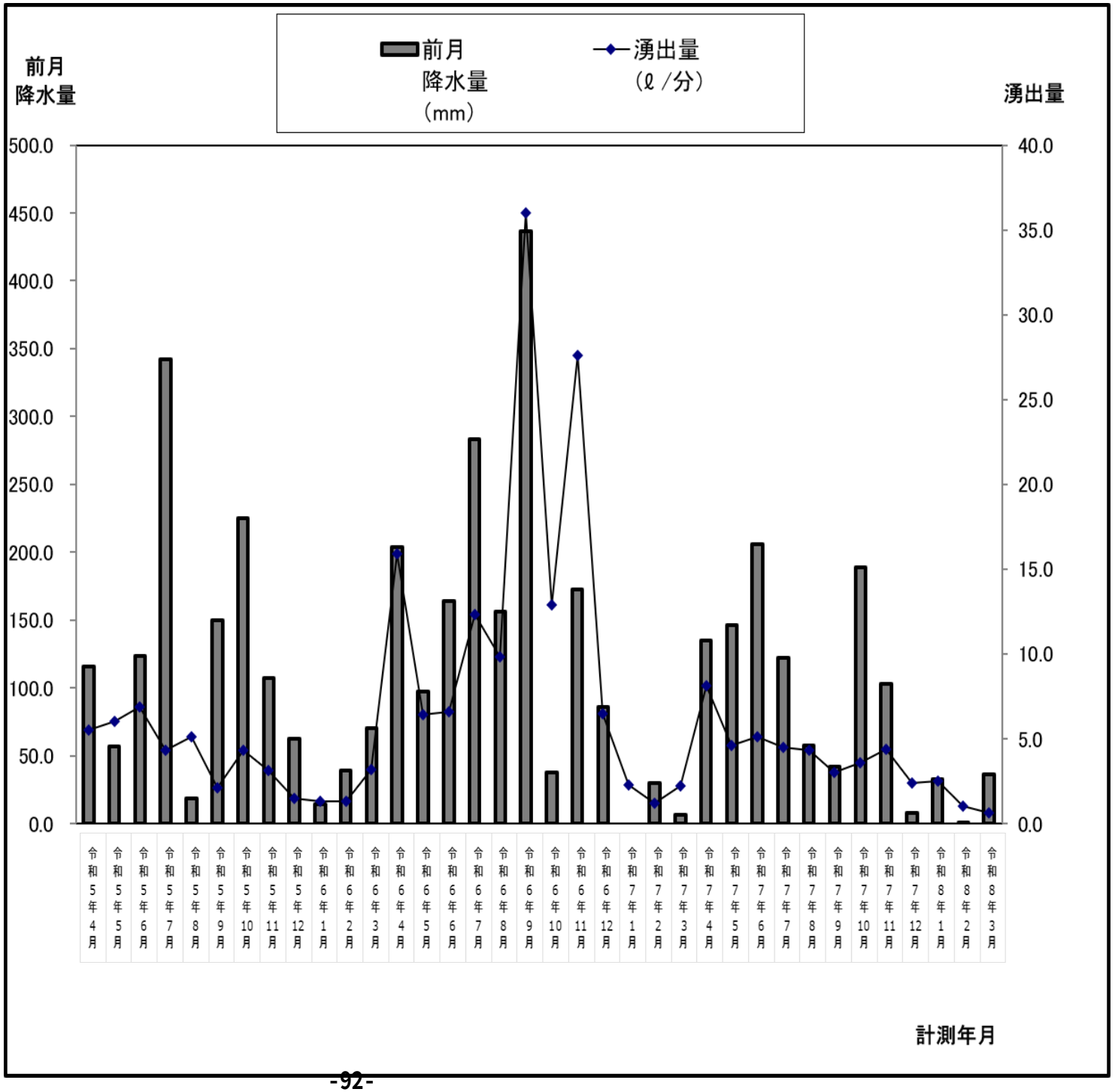
西府町湧水7項目簡易水質調査結果

検査日	令和5年6月	令和5年12月	令和6年6月	令和6年12月	令和7年6月	令和7年12月
天候	晴れのち曇り	曇り	曇り後晴れ後雨	晴れ	曇り	晴れ
外気温(℃)	18	8	20	13	19	15
水温(℃)	18.2	18	19	19	16	19

湧水量 (ℓ/分)	5.9	1.5	6.6	6.5	5.1	2.4
pH	6.5	6.5	6.5	6.5	6	6.5
鉄(mg/ℓ)	0.05 以下	0.05 以下	0.05 以下	0.05 以下	0.05 以下	0.05 以下
全硬度 (mg/ℓ)	150	100	200	150	200	150
COD (mg/ℓ)	5	0	0	0	0	0
亜硝酸 (mg/ℓ)	0.02 以下	0.02 以下	0.02 以下	0.02 以下	0.02 以下	0.02 以下
一般細菌 (個/ml)	76	4	240	3	2	0
大腸菌	検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出

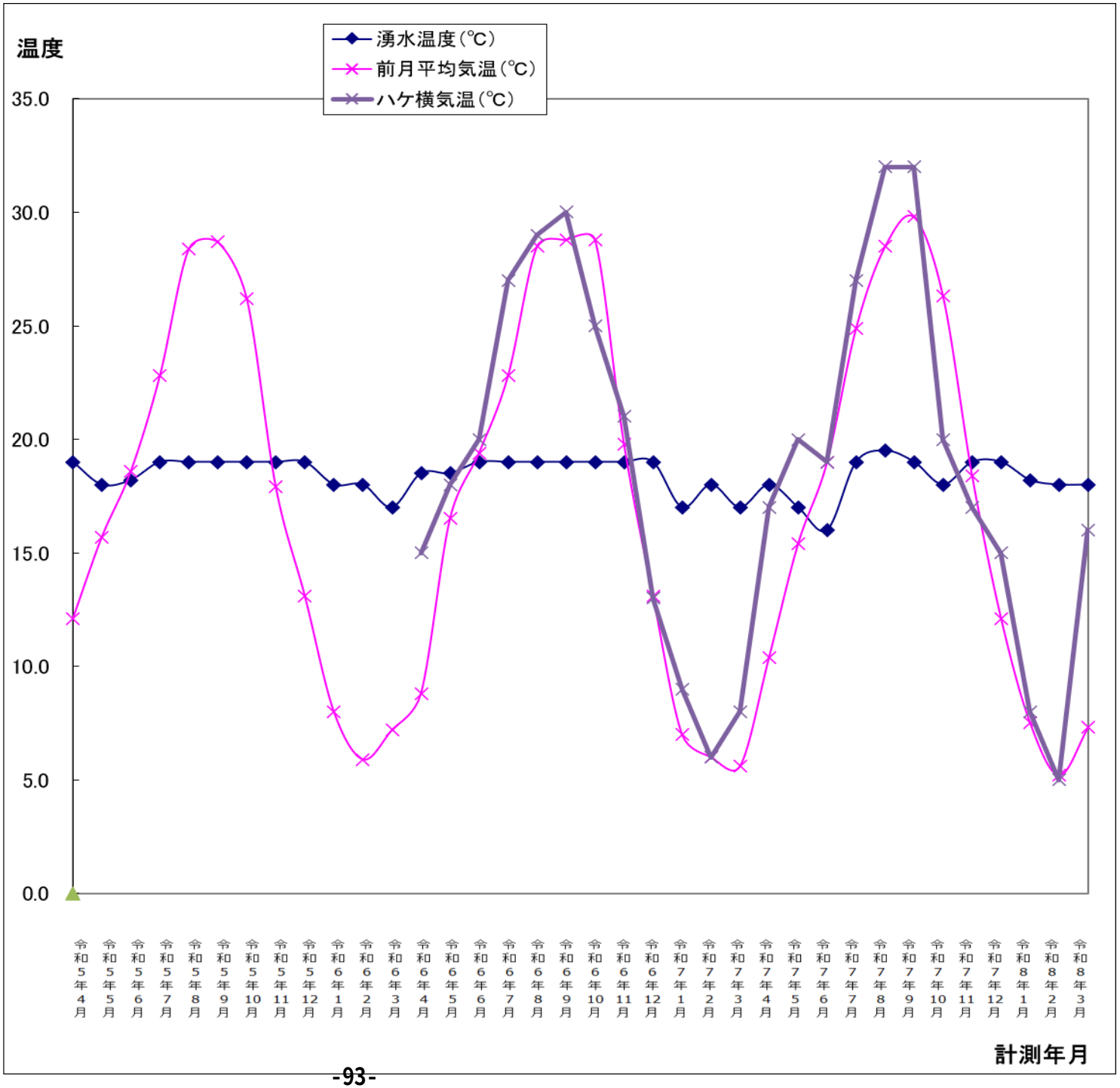
●湧出量と前月降水量（経年変化）

測定年月	湧出量（ℓ/分）	前月降水量（mm）
令和5年4月	5.5	115.5
令和5年5月	6.0	57.0
令和5年6月	6.9	123.5
令和5年7月	4.3	342.0
令和5年8月	5.1	18.5
令和5年9月	2.1	150.0
令和5年10月	4.3	225.0
令和5年11月	3.1	107.0
令和5年12月	1.5	62.5
令和6年1月	1.3	14.5
令和6年2月	1.3	39.0
令和6年3月	3.2	70.0
令和6年4月	15.9	204.0
令和6年5月	6.4	97.5
令和6年6月	6.6	164.0
令和6年7月	12.3	283.0
令和6年8月	9.8	156.0
令和6年9月	36.0	436.5
令和6年10月	12.9	37.5
令和6年11月	27.6	172.5
令和6年12月	6.5	86.0
令和7年1月	2.3	0.0
令和7年2月	1.2	29.5
令和7年3月	2.2	6.5
令和7年4月	8.1	135.0
令和7年5月	4.6	146.0
令和7年6月	5.1	206.0
令和7年7月	4.5	122.0
令和7年8月	4.3	57.5
令和7年9月	3.0	42.0
令和7年10月	3.6	189.0
令和7年11月	4.4	103.0
令和7年12月	2.4	7.5
令和8年1月	2.5	33.0
令和8年2月	1.0	0.5
令和8年3月	0.6	36.5



●湧水温度と前月平均気温（経年変化）

計測年月	湧水温度（℃）	前月平均気温（℃）	ハケ横気温（℃）
令和5年4月	19.0	12.1	
令和5年5月	18.0	15.7	
令和5年6月	18.2	18.6	
令和5年7月	19.0	22.8	
令和5年8月	19.0	28.4	
令和5年9月	19.0	28.7	
令和5年10月	19.0	26.2	
令和5年11月	19.0	17.9	
令和5年12月	19.0	13.1	
令和6年1月	18.0	8.0	
令和6年2月	18.0	5.9	
令和6年3月	17.0	7.2	
令和6年4月	18.5	8.8	15.0
令和6年5月	18.5	16.5	18.0
令和6年6月	19.0	19.4	20.0
令和6年7月	19.0	22.8	27.0
令和6年8月	19.0	28.5	29.0
令和6年9月	19.0	28.8	30.0
令和6年10月	19.0	28.8	25.0
令和6年11月	19.0	19.8	21.0
令和6年12月	19.0	13.1	13.0
令和7年1月	17.0	7.0	9.0
令和7年2月	18.0	6.0	6.0
令和7年3月	17.0	5.6	8.0
令和7年4月	18.0	10.4	17.0
令和7年5月	17.0	15.4	20.0
令和7年6月	16.0	19.0	19.0
令和7年7月	19.0	24.9	27.0
令和7年8月	19.5	28.5	32.0
令和7年9月	19.0	29.8	32.0
令和7年10月	18.0	26.3	20.0
令和7年11月	19.0	18.4	17.0
令和7年12月	19.0	12.1	15.0
令和8年1月	18.2	7.5	8.0
令和8年2月	18.0	5.2	5.0
令和8年3月	18.0	7.3	16.0



（3） 環境啓発事業

● 府中環境まつり

「府中環境まつり」は、効果的かつ総合的に環境の保全に関する理解を深めていただくため、これまで開催していた「グリーンフェスティバル」、「環境フェスタ」、「リサイクルフェスタ」を統合したイベントです。

地球温暖化防止、自然保護、資源循環など、環境について楽しみながら学び考えることができるイベントとして開催しています。

年度	日　時	会場	内　容	来場者数 参加団体数
令和 7	10月5日（日） 11:00～16:00	けやき 並木通り	市民団体・事業者・学校等の出店による環境への取組み紹介、エコカー・電気パッカー車展示、木の実細工や鳥の巣箱作り等の自然体験や工作、ステージイベント　など	14，000人 （延べ人数）

● 環境啓発ポスターコンクール

市民の環境への意識高揚を図るため、市内小中学校児童及び生徒を中心にポスターコンクールを実施しました。

〇表彰式

日時：令和7年12月15日（月）

会場：おもや4階　第1・第2特別会議室

応募作品数	110
入賞作品数	12

最優秀賞

清水　優希さん（小学4年生）

2 環境保全活動センター

（1） 設置の経緯

府中市環境保全活動センターの設置等については、平成15年に策定された府中市環境基本計画に初めて明記されたほか、平成18年3月には、府中市環境基本計画に基づき、市民や事業者及び行政が相互に意見交換し、環境基本計画の進捗状況や計画を推進するための方策について検討するため、府中市環境推進協議会が設置されました。

同協議会ではこの中で、市民や事業者及び行政が、環境基本計画及び環境行動指針を推進するとともに、各主体が環境基本計画を実践するための枠組みとして、環境活動の場を設置する必要があると、平成20年3月に市長へ「環境保全活動の支援センターのあり方について」提言しております。

また、平成23年3月に策定された府中市地球温暖化対策地域推進計画の中でも、個別施策等各般にわたり活動センターの役割が期待されていました。

この流れを受け、平成23年度予算に活動センター設立に係る経費を計上するとともに、府中駅北第2庁舎7階に約20㎡の事務室を確保した後、同年7月に活動センターの管理運営規則及び運営委員会に関する要綱等を協議するため、「府中市環境保全活動センター開設準備に関する懇談会」が設置されました。

こうした中で、平成23年12月1日に府中市環境保全活動センターを開設し、環境保全に関する学習の機会並びに交流及び活動の場を提供し、市民等が行う環境保全活動の支援を開始しました。

（2） 令和7年度の動き

センター事業を検討するための組織である検討調整会を12回開催する中で、センターの事業や今後の運営方法などについて整理・検討を行いました。

令和5年度に開設されたホームページを活用し、環境に係る様々な情報発信を行いました。また、会報「かんきょう活動センターだより」を発行し、市民への環境情報の提供とセンターの活動内容の周知に努めました。

6月の環境月間の催しとして、第14回市民協働推進シンポジウム「豊かな「水」環境を守るためにできること」 ～サントリーの「水育」・府中の環境教育活動から学ぼう～を開催しました。本シンポジウムは、豊かな「水」環境を守るために、市民、団体、企業、そして専門家が一堂に会して水環境の保全と教育について考える貴重な機会となりました。

また、大学生との協働事業として、令和7年度も明星学苑中学校の生徒を対象とした環境学習事業を実施しました。本事業は、大学生による環境をテーマにした講座・ワークショップの企画で、東京農工大学のサークル『ごみダイエットNOKO』との協働により実施しました。

なお、センターの事業活動を担う令和7年度末のサポーター登録数は、個人76人、事業者等が14団体となっております。

（3） 令和7年度活動実績

事　業　等	参加者数等	件数	実　施　月
「センターだより」の発行	1回	―	3月
府中かんきょう塾	209人	8	6月、7月、8月、10月、11月、12月、1月
親子かんきょう塾	212人	3	8月、10月、3月
打ち水日和	95人	1	7月
市民協働推進シンポジウム	117人	1	6月

3　地球温暖化対策

地球温暖化とは、温室効果ガスの過度な蓄積により、地球の平均気温が長期的に上昇することです。

温室効果ガスが全くないと今の地球の気温は維持できませんが、過度に蓄積すると気温が上昇し過ぎ、地球の気候を大きく変化させ、自然生態系などに深刻な問題を与えます。

気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）では、先進国と途上国を含むすべての国が参加し、産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑制すると同時に、気候変動に脆弱な島しょ国に配慮し、1．5℃未満に抑えるよう努力するという目標を明記したパリ協定が採択されました。日本においても、令和2年10月の第203回臨時国会の所信表明演説において、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言され、令和3年4月の米国主催による気候サミットで「2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46％削減すること」が表明されました。

このような中、府中市でも脱炭素社会に向けた取組をさらに推進するため、令和3年11月に2050年CO2（二酸化炭素）実質排出ゼロを目指すゼロカーボンシティを表明しました。また、令和3年12月には、市内の大規模事業者や大学と「府中市における2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けた協働に関する地域協定」を締結しました。

令和4年度には、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を包含する、第3次府中市環境基本計画を策定し、計画目標として「温室効果ガス排出量を2030年度に2013年度比48％削減」、長期目標として「2050年に温室効果ガス排出実質ゼロ」を目標に掲げています。

また同年、地球温暖化対策実行計画（事務事業編）として、第5次府中市職員エコ・アクションプランを策定し、府中市役所における事務事業に係る温室効果ガス排出量削減等を図るため、府中市役所が排出する温室効果ガスの削減目標等を定め、庁内の省エネ・省資源等に関わる推進すべき取組を示すことにより、温室効果ガス排出量の削減を図っています。

さらに、令和6年度に、新たに民間事業者と「ゼロカーボンシティ実現に関する連携協定」を締結し、低炭素エネルギーの調達や電力量の可視化によるエネルギー消費の最適化などを推進し、令和7年3月には電気自動車の更なる普及を図るため、「次世代自動車充電設備の普及に関する協定」を締結しました。

用語説明

※　**温室効果ガス**

太陽から地球に降り注ぐ（波長の短い）光は素通りさせますが、地球から宇宙に逃げる（波長の長い）赤外線（熱線）は吸収するため、地球の温度を上昇させる働きのあるガスのことをいいます。

京都議定書及び地球温暖化対策の推進に関する法律では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素の7物質が指定されています。

※　ISO

「国際標準化機構（International Organization for Standardization）」の呼称です。スイスのジュネーブに本部を置く非政府組織（NGO）で、工業製品やサービスなどの国際的な規格の制定や標準化を目的として設立された国際機関です。

※　ISO14001

ISOが定めた環境に配慮するための仕組みを定めたシステムの規格です。PDCAサイクル（計画→実施→点検→見直し→計画のサイクル）を回すことで環境負荷低減行動の進行管理を行い、継続的な改善を進めます。

（1） エコハウス設備設置助成事業

地球温暖化防止対策の一環として、個人住宅の環境に配慮した住宅設備設置費用の一部を助成することにより、自然エネルギーの有効活用の促進をするため、平成17年11月9日付で「府中市エコハウス設備設置助成金交付要綱」を制定し、実施しています。　（令和5年度実施概要）

対　象　設　備	補　　助　　率
太陽光発電システム	1kW あたり2万円で上限10万円
太陽熱高度利用システム	2万円
二酸化炭素冷媒ヒートポンプ給湯器	1万5千円
家庭用燃料電池コージェネレーションシステム	2万5千円
雨水浸透施設	標準工事費又は設置に要する費用を比較して少ない方の5割で上限10万円
雨水貯留槽	本体と架台の購入に要する費用の1/4で上限1万円
家庭用蓄電池システム	1kWh あたり2万円で上限10万円
既設窓の断熱改修	設置に要する費用の1/5で上限10万円

年度別交付件数推移

対象設備	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	計
住宅用太陽光発電システム	9	17	6	17	44	89	173	253	163	140	112	75	72	61	40	43	45	76	242	313	1,990
太陽熱高度利用システム	0	0	3	0	3	5	2	2	3	5	4	5	0	0	2	0	0	0	1	1	36
潜熱回収型給湯器	10	126	90	47	17	43															333
二酸化炭素冷媒ヒートポンプ給湯器	6	56	38	38	22	54	20	12	33	28	33	28	27	21	15	11	12	25	56	70	605
ガスエンジン給湯器	0	0	5	8	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0							17
家庭用燃料電池コージェネレーションシステム	0	0	0	0	0	1	33	36	107	135	183	168	142	167	51	47	38	23	30	39	1,200
雨水浸透施設	1	3	0	0	0	3	3	0	1	0	2	3	2	2	4	0	1	1	0	0	26
雨水貯留槽	2	0	2	0	3	4	15	12	13	6	5	3	5	3	0	1	2	3	2	5	86
家庭用蓄電池システム															52	59	62	98	340	456	1,067
既設窓の断熱改修															23	20	16	21	67	127	274

対象設備ごとのCO_2排出削減量

対　象　設　備	CO_2排出削減量(kg-CO_2/年)	
	令和７年度	平成17年度から令和7年度までの累積
住宅用太陽光発電システム	679，984	3，517，655
太陽熱高度利用システム	420	15，120
二酸化炭素冷媒ヒートポンプ給湯器	35，000	303，500
家庭用燃料電池 コージェネレーションシステム	44，850	1，380，000
既設窓の断熱改修	328，971	695，414
合　　計	1，088，552	5，911，516

住宅用太陽光発電システムのCO_2排出削減量算定における排出係数：0．382（東京都環境局 「再エネクレジット算定ガイドライン」より）

※　参考資料

「東京ソーラー屋根台帳」（ポテンシャルのシミュレーション方法）、東京都環境局「再エネクレジット算定ガイドライン」、JISC8907：2005「太陽光発電システムの発電電力量推定方法」、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）日射量データベース閲覧システム、環境省「ヒートアイランド現象による環境影響等に関する調査業務報告書」

なお、平成17年度から令和7年度までの累積CO_2排出削減量である5，911，516kg-CO_2/年は、一般家庭1世帯あたりの年間CO_2排出量が約4，150kg-CO_2であるため、約1,424世帯分のCO_2排出量に相当します。

※　参考資料

温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ（1990～2018 年度） 確報値」

（2） カーボンオフセット

ア　カーボンオフセットとは

地球温暖化は、人間の諸活動の中で排出される二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスによって引き起こされ、人類の生存基盤や自然の生態系にも悪影響を及ぼすに至りました。そこで、温室効果ガスの排出量を減らすための国際的な取組みが行われ、平成9年（1997年）の京都議定書では、我が国に6％の削減の目標が定められました。今、国を挙げての低炭素社会の構築に向けた行動・実践が求められています。

このような中で、注目を集めているのが、「カーボンオフセット」です。カーボンは「二酸化炭素」、オフセットは「埋め合わせる」という意味を表わします。まず、諸活動の中で排出をしている二酸化炭素などの温室効果ガスの量を認識（見える化）し、削減努力を行うことが必要です。そして、どうしても削減できない部分を、他の場所でのクリーンエネルギーの導入や二酸化炭素を吸収する森林整備など、排出削減、吸収プロジェクトに投資を行い、それによってもたらされる温室効果ガスの排出削減量や二酸化炭素吸収量で、削減しきれなかった部分を埋め合わせる、これがカーボンオフセットです。

イ　姉妹都市佐久穂町とのカーボンオフセット事業の実施状況

平成23年7月26日に姉妹都市である長野県佐久穂町と締結した「府中市と佐久穂町との地球環境保全のための連携に関する協定」、「長野県の森林の里親促進事業森林整備協定」に基づき、平成27年度までの5年間、市の家庭ごみなどの市指定有料袋の焼却をはじめとする市民

生活から排出されるCO_2相当量の一部を、佐久穂町において森林整備を実施することで相殺させるカーボンオフセット事業を行いました。今後もカーボンオフセット事業を継続するため、平成28年3月7日に第2期協定を締結しました。

令和7年度については、新たに佐久穂町の町有林16.35ヘクタールを植林し、二酸化炭素吸収量は11．3t-CO_2／年となりました。また、平成30年度から令和6年度までに森林整備した140．88ヘクタールについて、令和7年度も1，147．2t-CO_2／年の二酸化炭素吸収量が認められたため、合わせて1，158．5t-CO_2／年の二酸化炭素吸収量について、令和8年3月18日に長野県から「森林の里親促進事業」CO_2吸収量認証書を受け取りました。

森林整備面積及び二酸化炭素吸収量

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
森林整備面積(ha)	21.01	20.70	23.01	19.03	21.27	15.46	16.35
二酸化炭素吸収量対象面積(ha)	76.10	80.32	83.71	104.15	125.42	140.88	157.23
二酸化炭素吸収量(t-CO_2/年)	186.0	110.8	84.2	416.8	431.5	797.2	1,147.2

（3） 森林保全体験学習事業

地球温暖化防止対策の一環として、森林を整備することの大切さを知ってもらうため、姉妹都市佐久穂町で、市内の小中学生を対象とした森林保全体験学習事業を平成23年度から実施しています。（※令和2年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。）

府中市の温室効果ガス排出量の推移

［単位：1000t-CO2eq］

ガス種	基準年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
二酸化炭素 CO_2	917	917	960	986	957	1,023	981	981	1,034	1,030	1,044	1,064	1,052	1,179	1,222	1,111	1,103	1,024	1,118	1,084	1,034	1,041	1,093	1,156	1,145	1,085	1,024	997	1,005	979	929	905	940	941	870
メタン CH_4	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
一酸化二窒素 N_2O	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	8	8	8	8	7	7	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3
ハイドロフルオロカーボン類 HFCs	3						3	5	6	7	7	8	9	10	10	10	10	8	23	27	31	34	38	42	57	62	69	75	85	89	93	96	100	85	59
パーフルオロカーボン類 PFCs	2						2	2	3	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
六ふっ化硫黄 SF_6	2						2	2	3	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1
三ふっ化窒素 NF_3	0																								0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	936	928	972	998	968	1,035	1,000	1,002	1,057	1,053	1,065	1,084	1,073	1,200	1,242	1,131	1,123	1,042	1,150	1,120	1,073	1,083	1,139	1,207	1,210	1,155	1,102	1,079	1,098	1,076	1,030	1,010	1,047	1,033	936

※ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、及び六ふっ化硫黄については、基準年度を1995年としているため、1994年以前の値は算定していない。

※三ふっ化窒素については、2013年実績から算定の対象となったため、2012年以前の値は算定していない。（基準年度は1995年）

※表中の数値は小数点以下を四捨五入しているため、各ガス種の数値が合計と一致しないことがある。

部門別二酸化炭素排出量の推移

［単位：1000t-CO2］

部門	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
農業・水産業	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2
建設業	43	41	38	39	48	28	27	37	21	20	18	19	39	23	15	8	10	33	17	19	24	25	21	24	19	12	13	20	15	9	13	12	11	14
製造業	230	234	224	192	217	204	202	219	222	234	218	212	213	211	182	152	142	152	152	137	152	178	202	206	195	174	185	172	166	159	151	156	198	172
産業部門計	274	277	264	233	268	234	231	259	246	257	239	234	255	237	200	163	155	189	172	158	179	206	226	233	217	188	201	195	184	170	166	170	211	188
家庭	212	223	231	231	236	236	226	222	224	235	244	243	276	304	276	299	271	312	301	296	310	334	362	363	342	325	324	333	312	303	315	321	310	276
業務	176	185	201	203	221	215	212	223	226	229	255	249	306	362	331	380	329	373	370	343	334	336	360	346	325	317	287	297	305	277	261	278	249	246
民生部門計	388	407	431	434	457	451	438	446	450	464	499	492	583	665	608	679	600	685	672	640	643	670	722	709	667	643	611	630	616	580	576	599	559	522
自動車	232	251	264	264	272	274	288	301	302	296	300	297	300	293	279	235	230	217	208	208	200	194	183	177	177	169	159	157	155	155	142	147	146	137
鉄道	12	13	14	14	15	14	13	13	12	12	12	12	14	17	14	14	13	16	15	14	14	17	20	20	19	18	18	18	17	17	16	16	16	15
運輸部門計	244	264	278	278	287	288	301	314	314	308	312	309	314	309	294	249	243	233	223	222	214	211	202	196	195	188	177	175	172	172	159	164	162	152
廃棄物部門	12	12	13	12	12	8	11	16	20	15	14	16	27	10	10	12	26	11	17	14	5	6	5	7	5	6	8	5	7	7	5	7	9	8
合計	917	960	986	957	1,023	981	981	1,034	1,030	1,044	1,064	1,052	1,179	1,222	1,111	1,103	1,024	1,118	1,084	1,034	1,041	1,093	1,156	1,145	1,085	1,024	997	1,005	979	929	905	940	941	870

※表中の数値は小数点以下を四捨五入しているため、各部門の数値と合計が一致しないことがある。